

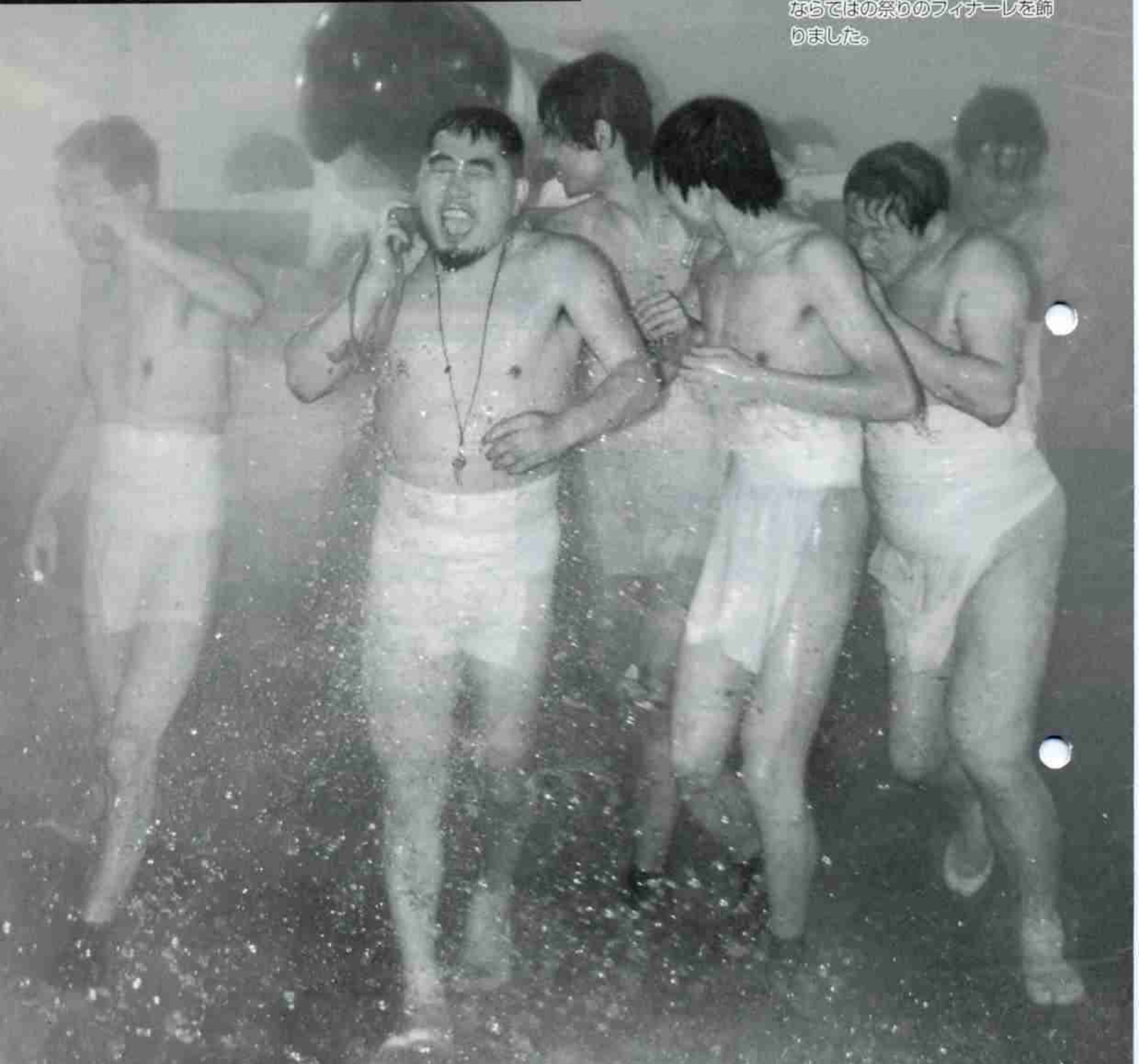
のぼりべつ

の 広報

人が輝き まちがときめく ふれあい交流都市 のぼりべつ

2月3日(火)・4日(水)の2日間、登別温泉街で「第27回登別温泉湯まつり」が行われ、多くの観光客でにぎわいました。

最終日には、下帯すがたの若衆約80人が豪快に湯を掛け合う「源泉湯かけ合戦」が行われ、湯の街ならではの祭りのフィナーレを飾りました。



特集

あなたのまち わたしのまち

1998 No. 569

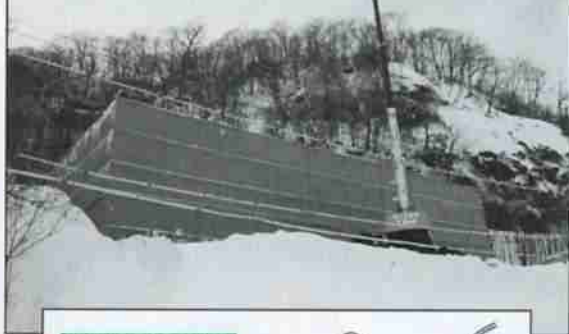
3/7

登別温泉町や上登別町などを主な給水地区とした『登別温泉高区配水池』の設置工事が、平成10年7月の供用開始に向け進められています。

約1,500³の貯水ができるこの配水池は、近年水の需要量が大幅にのびている同給水地区へ安定した給水を行うほか、火災・災害などへ緊急対応するため設置されます。(事業費は、約3億8千万円)

▶問い合わせ 工務課 (☎☎55110)

②登別温泉高区配水池の設置



温泉バイパスは、登別温泉市街地を避け、登別厚生年金病院付近からクスリサンベツ川沿いに建設される新ルートで、延長820^mが事業化されています。

完成時には、幅員10^mの車道部と3.5^mの歩道となり、全体計画では地獄谷駐車場近くの道道に接続させる予定です。

平成9年度は、用地買収と移転補償を行い、登別厚生年金病院付近の工事を行っています。
※この事業は北海道の事業です。

▶問い合わせ 管理課 (☎☎3230)

①温泉バイパス(道道倶多楽湖公園線)整備事業



あなたのまち

市は、私たちが暮らしている『のほりべつ』が、市民のみならず、みんなに愛され、共に『こ』で暮らす喜びを見いだせるまちにするため、さまざまなまちづくりを進めています。
今号では、平成9年度に市内で行われた主な事業の経過をお知らせします。

わたしのまち

中登別町から登別温泉町に向かう紅葉谷橋付近までの約1,200mの区間で、急カーブの解消やこう配の緩和など、道路の線形改良を行うため、道路の新設や交差点の改良、中央分離帯への植栽などを行っています。完成は、今年3月末を予定しています。

※この事業は北海道の事業です。
▶問い合わせ 管理課 (☎) 3 2 3 0)

④道道洞爺湖登別線整備事業



平成9年6月に完成した登別温泉町の市営登別温泉団地は、7階建て28戸・1棟で、現在28世帯が入居しています。(工事費は、約6億8千万円)

▶問い合わせ 建築課 (☎) 4 3 9 9)

③市営登別温泉団地の建設



あなたのまち
特集
わたしのまち



▶中間処理施設完成予想図

⑥新ごみ処理施設建設事業



▶最終処分場完成予想図

設備の老朽化などが著しい清掃工場(焼却処理施設)と、数年のうちに満杯となる千歳最終処分場に代わる新たなごみ処理施設(中間処理施設・最終処分場)の建設に着手しました。

新たなごみ処理施設は、平成9年度から平成11年度までの3カ年で整備し、平成12年4月の稼働を予定しています。(事業費は3カ年で約87億円)

▶問い合わせ 清掃施設課 (☎) 3 0 0 9)



⑥道営登別東町団地の建設



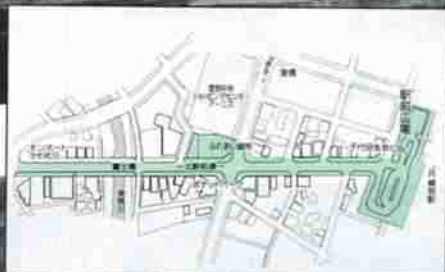
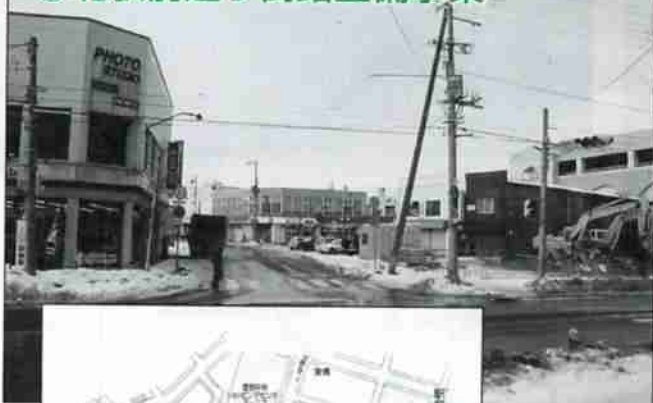
平成9年9月に完成した登別東町5丁目の道営登別東町団地は、3階建て12戸・1棟で、現在12世帯が入居しています。(工事費は、約2億5千万円)

※この事業は北海道の事業です。
▶問い合わせ 建築課 (☎) 4 3 9 9)

北駅前通り街路（道道弁景幌別線）整備事業は、北海道が実施しているもので、JR幌別駅西口から富士橋を経て、モンマートかわむら前付近までの約440mの区間を整備しています。現在は、店舗の解体や移転改造を行っています。来年度以降は、富士橋の掛け替えや駅前広場の整備のほか、市の実施事業として、仮称『ふれあい緑地』公園整備を進める予定です。全体の事業が終了するのは、平成14年度をめどとしています。（平成9年度の事業費は、約10億1千万円）

▶問い合わせ 経済振興室商店街近代化担当
(☎) 3132

⑧北駅前通り街路整備事業



岡志別の森運動公園（約72・千歳町）野球場（両翼100m、センター120m）は、平成9年5月に完成し、大会や練習などに利用されました。

テニスコート（6面のうち2面に照明設備）やパークゴルフ場（18ホール）、ジョギングコース（約1km）の建設と植栽の整備は、3月いっぱいには、今後『広報のほりべつ』でお知らせします。（事業費は、2カ年で約4億3千万円）

▶建設についての問い合わせ
都市計画課 (☎) 4115

⑦岡志別の森運動公園（愛称『サンパル』）



あなたのまち 特集 わたしのまち



⑩はしご付消防ポンプ自動車の購入

地上から40mの高さまで『はしご』を伸ばして消火や救助活動ができ、河川や海岸付近など離れたところにも『はしご』を掛け渡して救助活動を行うことができるはしご付消防ポンプ自動車を購入しました。

はしご付消防ポンプ自動車は、市役所横（幌別小学校側）の消防署車庫に格納しています。この付近は駐車禁止となっていますので、市民のみならずのご協力をお願いします。（購入費用は、1億7千万円）

▶問い合わせ 消防本部 (☎) 9611



⑨エレベーターの設置



障害をもつ方や高齢者が利用しやすい公共施設にするため、市役所庁舎と市民会館にエレベーターを設置する工事が現在進められ、3月いっぱいには完成する予定です。（事業費は、市役所庁舎…約8千100万円、市民会館…約5千900万円）

▶問い合わせ

◎市役所庁舎 総務部施設担当 (☎) 1184
◎市民会館 教育委員会総務課 (☎) 1100

平成10年9月の完成が予定されている新川町4丁目の道営新川団地は、3階建て18戸・1棟で18世帯が入居可能です。平成10年度以降も建設が行われ、全体で3棟52戸を予定しています。

入居の申し込み開始などについては、今後「広報のほりべつ」でお知らせします。(平成9年度の工事費は、約3億2千万円)

※この事業は北海道の事業です。

▶問い合わせ 建築課 (☎)4399

12 道営新川団地の建設



国際性豊かな人間を育てることを目的に、平成4年度から行われている中学生海外派遣事業を、平成9年度も継続実施し、市内の中学生7人を8月15日から24日の日程で派遣しました。

また、7月にはデンマーク研修生受け入れ支援事業として、2人の女性を3カ月間受け入れ、ホームステイなどを通して市民との交流を深めたほか、自治体職員協力交流事業として韓国光州廣域市の内務局に勤務する公務員1名を半年間受け入れ、観光行政をテーマにした研修や市民向けのハンゲル教室を開催しました。

▶問い合わせ 国際交流室 (☎)1130



11 中学生海外派遣や研修生などの受け入れ



14 市営桜木団地の建設

平成10年10月の完成が予定されている桜木町4丁目の市営桜木団地は、5階建て40戸・1棟で40世帯が入居可能です。平成14年度までに全体で3棟130戸を予定しています。

入居の申し込み開始などについては、今後「広報のほりべつ」でお知らせします。(平成9・10年度の工事費は、約8億5千万円)

▶問い合わせ 建築課 (☎)4399



13 道営桜木団地の建設

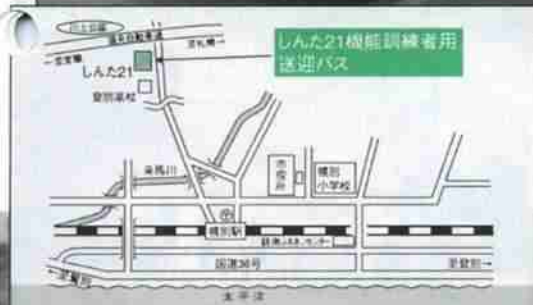
平成9年11月に完成した桜木町4丁目の道営桜木団地は、3階建て18戸・2棟で、現在36世帯が入居しています。(工事費は、約8億2千万円)

※この事業は北海道の事業です。
▶問い合わせ 建築課 (☎)4399

送迎バスは、障害をもつ方や高齢により身体の機能が低下している方が、『しんた21』で機能訓練を行うときの送迎用として購入しました。また、機能訓練以外でしんた21を利用する方のために毎週木曜日に限り、無料で送迎しています。運行時間などは問い合わせください。(購入費用約640万円)

▶問い合わせ 保健福祉課
(しんた21内 ☎ 0100)

16 「しんた21」機能訓練者用送迎バスの購入

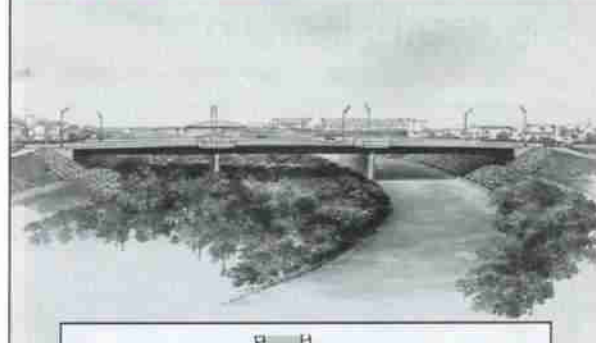


新川町と桜木町を結ぶ小平岸橋の約100m下流に、幌別川にかかる橋の建設が進められています。橋は、幅16m、長さ94.4mで、平成9年度は橋脚、橋台の建設が行われました。

供用開始は、平成10年度中の見込みです。
※この事業は北海道の事業です。

▶問い合わせ 管理課 (☎ 3230)

15 富士通り(道道上登別室蘭線)整備事業



18 総合防災訓練

平成9年7月25日、富岸小学校グラウンドで、地震・津波・大雨を想定した総合防災訓練を実施しました。

訓練には、登別市をはじめ、室蘭市や伊達市、消防、陸上自衛隊、登別郵便局、室蘭警察署、富岸地区連合町内会、N T T、北海道電力などの関係機関が参加し、避難訓練や災害復旧訓練、ヘリコプターによる負傷者の搬送訓練、火災消火訓練などが行われました。

▶問い合わせ 総務課 (☎ 1130)



17 公共下水道事業

平成9年度は、富岸町2丁目、若山町3・4丁目、幌別町2丁目、中央町2丁目、片倉町2丁目、桜木町5丁目、千歳町6丁目のそれぞれ一部が供用開始となり、平成9年度末の普及率は約44%に達する予定です。

▶問い合わせ 下水道課 (☎ 9052)

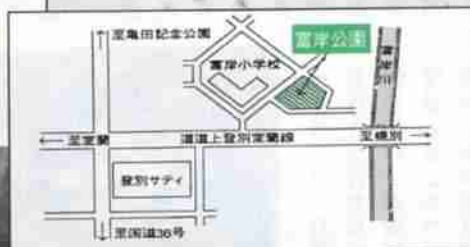
◀若山浄化センター

富岸小学校正門前にある、富岸公園（約12・富岸町2丁目）は、幼児遊具広場や大型遊具広場、多目的グラウンド、バスケットボールコート、壁打ちテニスコート、遊歩道、ベンチ、あずまや、花壇、フェンスなどがすでに完成し、スポーツや散歩などを楽しむことができます。

公園は3月いっぱいには全面完成する予定で、現在、ベビーベッドや手すりなどを備えたトイレの設置工事が進められており、完成後は乳幼児と一緒にのお母さんや車いすの方も安心して利用できます。（事業費は、3カ年で1億7千500万円）

▶問い合わせ 都市計画課（☎4115）

⑳富岸公園の新設

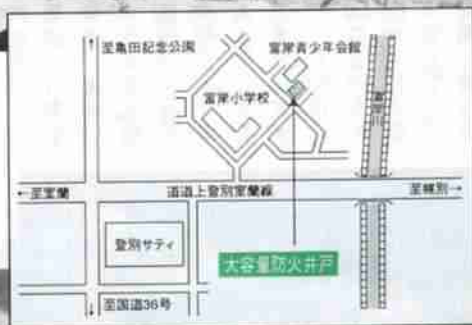


今月末、富岸町2丁目の富岸青少年会館付近に「大容量防火井戸」が完成します。

鷺別支署敷地内に設置された防火井戸に続き、市内で2カ所目となるこの防火井戸は、約100³の地下水を常時ためておくことができ、断水時の消防用水や非常用生活用水を確保します。（事業費は、約1千960万円）

▶問い合わせ 消防本部（☎9611）

⑲大容量防火井戸の新設



㉒鷺別漁港整備事業

鷺別漁港整備事業として、平成9年度には船揚場や物揚場、道路が新設されました。（平成9年度の事業費は、約1億5千600万円で、そのうち市が負担する額は約2千70万円です）

※この事業は、北海道の事業です。

▶問い合わせ 農林水産課（☎2321）



▲若草19号線



㉑ロードヒーティング整備事業

坂のこう配がきつい美園7号線70^号と若草19号線17^号に、ロードヒーティングの工事が行われ、昨年12月末に完成しました。（事業費は、約2千200万円）

▶問い合わせ 土木課（☎3260）

▲美園7号線

自国の文化を見つめ直して

2月5日(木)、市民会館で室蘭・登別・伊達三市合同文化講演会(同実行委主催)が開催されました。

「面白大国ニッポン! 日米文化比較論」と題した講演会は、テレビなどで活躍中のケント・ギルバートさんを講師に迎え、国の歴史や国民性、価値観などの違いをエピソードを交えて展開されました。

この中で、ギルバート

『乙女のすがた』

1月25日(日)、市民会館中ホールで登別市子ども会育成連絡協



は取らせない!

加している船橋由さん(札幌西

議会(川島芳治会長)による『第15回登子連かるた(百人一首)大会』が行われ、小・中学生60人が参加しました。
大会では、小・中学生がそれぞれの部に分かれ、小学生の部は10チーム、中学生の部は6チームによるリーグ戦が行われ、子どもたちは下の句を聞き逃すまいと真剣に札を見つめていました。

小6年)は「お正月には、家族と百人一首をしています。札を覚えるのは大変だったけど、一度覚えるとなつても楽しい。中学生になつても、この大会に出ようと思つています」と話してくれました。



ふなはし ゆき、船橋 由さん

さんは、昭和46年に初来日して

からの生活体験を基に、日本を「縦割り、協調、集団、規則、建前」の社会、アメリカを「横割り、競争、個人、罰則、本音」の社会とし、「日本がアメリカの文化を取り入れようとしてもうまくはいかない。また、アメリカについても同じことが言えると思う。まず自国の文化を大事に、その上で他国の文化を尊重し、協調していくことが大切」と提言しました。会場に詰め掛



けた約700人の市民は、ギルバートさんのユーモアを交えた巧みな話術に聞き入っていました。

2年後の稼働を目指して

2月9日(月)、清掃工場横(幸町2丁目)で『新ごみ処理施設(焼却処理施設・リサイクルプラザ)建設』の起工式が行われ、市長ほか工事関係者約50人が参加し、工事中の安全を祈りました。

この新しいごみ処理施設は、設備の老朽化などが著しい現在の清掃工場に代わるものとして建設されるもので、2年後の平成12年4月の稼働を予定しています。

新しい施設では、現在、『燃やせないごみ』となっているプラスチックやビニールなど高カロリーごみの焼却ができ、また、心配されるダイオキシン類の発生も抑制され、国の排出規制値を下回るようにしています。



2月12日(木)、市民会館大ホールで、アイス詞曲舞踊団『モシリ』による「MOSHIRIライブIN登別」(文化・スポーツ振興財団主催)が開催されました。

同舞踊団『モシリ』は、アイヌ民族の祖先が伝承してきた精神、歌、踊りをもとに、現代のアイヌ芸術の創造を試みるグループで、全道各地で精力的な活動を続けています。

太鼓や民族楽器のムックリ(口琴)、シンセサイザーなどが奏でる幻想的な音楽と、民族的な歌や踊りが織り成す神秘的な世界は、大勢の観客を魅了していました。

魂を揺さぶる神秘の世界

空

専

1月24日(土)、登別温泉町の『のほりべつクマ牧場』で『クマさん博士講座』が開催され、市内の小学5・6年生8人が参加しました。

この講座は、教育委員会がクマ牧場の協力を得て、クマの生態を四季を通して知り、生命の尊さや自然の大切さを学ぶもので、7月・9月の開催に続き今回で3回目の開催となりました。

大自然と生命の尊さを学ぶ

この日のクマ牧場は、気温がマイナス15℃まで下がり、クマ牧場から一望できる倶多楽湖は、この冬はじめて湖面の一部が凍結しました。

講師の同牧場学芸員前田菜穂子さんから、凍結した湖を例に、厳しい自然環境の中で生きるクマについての話を聞く子どもたちは、巣穴の模型で穴の大きさを確かめたり、赤ちゃんグマのはく製を手にしたりと楽しく学んでいました。



講座終了時には、全員に修了証が手渡され、子どもたちはとても満足そうでした。

コートの中では平気なの

1月25日(日)、第15回市民ミニバレー大会が総合体育館で開催されました。

この日は、学生から社会人、主婦までのミニバレー愛好者が集まり、男子15チーム、女子31

チームの計200人が参加しました。

コートでは、スパイクやプロック、ラリーの応酬、「ナイスサーブ!」「ドンマイ!」といった声援の中、外の寒さを吹き飛ばすような熱戦が繰り広げられました。

この日、女子の部に出場した『PLUSSIA』チームの柏倉めぐみさんは「週2回、ミニバレーが大好きな仲間と練習しています。ミニバレーといっ

も、持久力と素早い動きが必要なので、普通のバレーボールと同じぐらい体力を使いますが、とても楽しいですよ。今日は優勝目指して頑張ります」と試合前の力強い意気込みを話してくれました。



柏倉めぐみさん

災害の恐ろしさを忘れずに

1月19日(月)、市民会館で『登別市防災研修会』が開催され、防災協力員や市職員、市民ら約150人が出席しました。

1月中旬の『防災とボランティア週間』にちなんで開催されたこの研修会は、災害時に必要な知識を学び、防災意識の高揚とその普及を進めるために行われました。

研修会では、NTT室蘭支店設備部長の栗宇弘さんを講師に迎え、『危機管理と災害対策の取り組み』と題して、阪神・淡路大震災の教訓をもとに取り組んだ災害対策についての講演が行われ、参加者は防災への認識を新たにしていました。



気合の入った鉄拳うなる

1月18日(日)、日本空手協会登別支部(藤島義一支部長)の道場鏡開きが行われ、小・中学生から一般までの約30人が参加しました。

門下生たちは、労働福祉センターで型や組手の初げいこを約1時間ほど行い、体を十分に温めた後、数回離れた幌別海岸までランニング。

この日は、みぞれ混じりの雨が降るあいにくの天候でしたが、はだしでランニングに参加する門下生の姿が多く見られました。

海岸では、横殴りの雨と風の中、荒れる海に向かって突きやけりの基本技を練習。

寒げいこ後は同センターに戻り、温かい豚汁を食べ冷えきった体を温めていました。

市民リポート

登別が歩む国際化への道

心と文化の国際交流



市民リポーター

おおむらともこ
大村朋子さん
(鉾山町・22歳)

最近、よく国際化・国際交流という言葉を目にします。また、海外へ渡航する方も年々増え続けています。

私自身も、過去に何度か海外に行くチャンスに恵まれ、旅先では文化の違いや言葉の壁にぶつかるともありませんでしたが、お互いに文化を学びあう姿勢が大切であるということを知りました。

登別市は、昭和61年3月に「国際観光レクリエーション都市宣言」を行い、まちづくりを進めています。平成9年4月には、国際交流の担当部署を係から国際交流室に格上げし、国際交流の充実を図ろうとしています。

今回は、市の国際交流事業などを取材し、国際交流とは何かを考えてみたいと思います。

日本の文化を

もつと世界に

登別市とデンマークのリンゲ市、ウイスリンゲ市は、平成2年7月に登別マリナーパークニクスが完成したことがきっかけで交流が始まったそうです。平成4年からは、中学生海外派遣事業が始まり、登別市と交流のあるデンマークへ中学生を派遣しています。帰国後の感想文には「言葉が通じなくても心が通じ合えば、どんなことでも

分かりあえるという素晴らしい経験をしました」という子どもたちの素直な気持ちに述べられています。

今年の7月には、登別デンマーク協会の研修生支援事業として、デンマークから派遣された研修生2人が、市国際交流室に籍を置き、ホームステイや日本語研修、さまざまな事業への参加を通して、日本の文化を学びました。

私と同年代の彼女たちは、欧州とは全く違う日本文化へ積極的に飛び込み、明るく周囲に溶け込んでいます。

登別でのさまざまな交流を通して感じたことを2人に聞きました。



▲登別の印象について話を聞く大村さん

を全面に出すよりも相手のことを考えて行動する日本人の気質に感銘を受けました」とアンルイサ・バーグさん(20歳)。

「日本に来る以前から柔道を習い、文化やしつけなどについて学んできましたが、実際に日本に来てみると戸惑うこともありました。日本の文化とは一人ひとりの人間性そのものです。ヨーロッパではEU(欧州連合)統合によって、個々の国の文化が失われつつあるのです。日本の独特の文化はもっと世界に広めていくべきだと思います」とランディ・ペダースンさん(21歳)。

「登別の人たちは本当に優しい。でも過剰に心配されるのは困ってしまいます。日本という国は住めば住むほど分からなくなってしまう。カルチャーショック(※)です」と二人で笑いながら話をする姿は、日本の20歳の女の子と変わらないように見受けられました。帰国後にはデンマーク各地での講演が控えているそうで、真剣に日本の文化を学ぼうとしている熱意には圧倒されました。

草の根交流で

友好関係を!

一方、韓国からは、自治体職員協力



▲アンルイサ・バーグさん



市民レポート

○国際観光レクリエーション都市宣言
美しい自然と、無限の温泉に恵まれた登別市は、北海道観光の宝です。
生活を楽しみ、心身を健やかに、明日への活力を求め、世界の人々が相い集う街理想郷登別市を目指して、ここに「国際観光レクリエーション都市」を宣言します。



▲李尚倍さん

交流事業で研修員1人が登別に派遣されました。滋賀県で1カ月ほど日本語研修を受けてから昨年の7月に登別入りした李尚倍さん(33歳)は、光州廣域市という人口140万人、韓国で5番目に大きい都市の公務員です。登別では、主に観光行政について学び、8月の地獄まつりにも参加したそうです。
「地獄ラーメン早食い大会や鬼踊りにも参加しました。こんなに誰もが楽しく参加できる祭りは韓国にはありません。日本の祭りは日本人の結束力をさらに強くするもの。地域の特色のPRにもなり、大変参考になりました。韓国人は、韓日の歴史などについてあまり良く思っていない。でも、一番大切なのは、政治的につくられた感情を抜きに、草の根交流のレベルでお互いを知り合うということだと思っております。今回は観光について勉強に來ましたが、これをきっかけにお互いの国を正しく分かり合い、友好関係を築くことができたいと思います」と話す李さんの言葉に信念を感じるとともに、日韓の歴史を深く知らない若者である私はいたく考えさせられました。

第一のふるさと 登別

私が一番初めに、日本以外の国を意識したきっかけの一つは、中学校の英語の授業でした。世界の公用語として英語の必要性が高まってきており、登別でも平成2年から外国人の英語指導助手が起用されています。現在は、四代目になるジョン・ドレイキーさん

(34歳)が各中学校での指導に当たっています。授業内容や生徒たちの学習への姿勢について話を聞きました。
「日本の中学生は、英会話が苦手な子が多い。授業はプリントだけではなくユーモアを交え、まず楽しく話をすることに重点を置いています。彼らは、アメリカの生徒と違ってグループで協力し合い、責任を持って学校生活を送っています。日本の教育の素晴らしいところですね」と話してくれました。
登別に住んで3年目を迎え、一般向けの英会話教室を開いたり、剣道や太極拳に励むジョンさん。

自分たちの文化を

見つめ直そう!

今回の取材の最後に、市の国際化推進の拠点である国際交流室主査の大野



▲国際交流室の大野主査に話を聞く大村さん

さんに話を聞きました。
「国際交流は外に目を向けるだけでなく、外から自分たちの文化を見ることも大切です。自分たちの文化を深く認識したうえで、違う国の文化を認め学んでいくという姿勢が大切だと思います。これからの国際交流は、歴史的にも関わりの深いアジアに目を向けるとともに、以前から登別に住んでいる在日外国人との交流を充実していくことが必要だと思います」と大野さんは話してくれました。

これまでの取材を通して、さまざまな人から改めて日本文化を見直す機会を与えられたような気がします。最近の日本人は、外国の合理的な文化を受け入れる一方で、日本の精神や心を失いつつあるといわれています。
日本文化を学ぶために世界中から多くの外国人が日本を訪れています。しかし、日本文化の美点を理解していないのは私たち日本人かもしれません。私たちは、もっと自分たちの文化の良さを知り、自信をもって広めていくことが国際交流の第一歩につながるのではないのでしょうか。

国際化・情報化が進む今日。これから登別を担い、世界に羽ばたく私たちは、国際交流を通して世界的な視野に立ち、地域の発展を目指す、真の国際人になりたいものです。

※カルチャーショック：異文化との接触時に、文化的な落差で受ける衝撃

いきいき ボランティア

『父の死を乗り越えて』



「昨年11月に『ワープロ講座のボランティア講師募集』の新聞記事を見て、これならできると思ったのがきっかけですね」と話す若草町の近藤敏夫さん。

近藤さんは、登別市社会福祉協議会が行っている心身障害者デイサービスのワープロ講座で、週1回講師を務めています。

2年前まで室蘭市内の企業に勤めていましたが、痲ほう症の父親を介護するため、定年前に会社を退職。献身的に介護を続けてきましたが、昨年9月、82歳で亡くなったそうです。

「父の死はショックでした。でも、自分の時間を持てるようになり、このままではいけないと思っていたとき、あの新聞記事が目にと飛び込んできました。父の介護を通して社会福祉に興味をもつようになりましたし、ワープロは



在職中に使っていたので、これならできると思っています。講師になってからまだ2カ月ですので、自分で満足のいく指導は難しいですね。でも、ワープロの操作を覚えてもらうことはもちろんですが、まずお互いを理解し合えるようになることを第一に心掛けています。中には、片手を自由に動かさない方もいるんですが、一生懸命に操作しようとする熱意が伝わってくるので、その気持ちにこたえてあげたくりますね。父の介護を経験してから、福祉の奥深さを知りました。得たものは大きいですね」と笑って話す近藤さん。

肉親の障害と死をきっかけに足を踏み入れた福祉の世界。近藤さんの第二の人生は今始まったばかりです。

▼ボランティアについての問い合わせ
登別市社会福祉協議会
ボランティアセンター
(☎2080)

ちょっとひとこと

楽しかったこと、悲しかったこと、うれしかったこと、市への疑問や意見・要望などを企画広報室へ電話やはがき、封書、ファクスでお寄せください。

企画広報室 中央町6-11 ☎1122 FAX☎1108

路上駐車はやめて

自分自身の励みになりました

今年の冬は、あまり雪が降らないなと思っていたら、年明けの降雪ですっかり雪景色になってしまった。雪が降ったあと除雪車が道路を除雪してくれるのは助かるが、一晩中どこか一日中、路上駐車している車があり、除雪の邪魔になっている。車の所有者がだらしないのか、もともと駐車する場所がないのか、周りの迷惑を考えずに駐車している。困っているのは私だけではないはず。なんとかならないものか。

(中央町 男性)

市としても除雪時の路上駐車には苦慮していますが、ご質問の駐車については、違法駐車と思われるので、警察などと連携して道路交通上、除雪に支障のないよう指導していきたいと考えています。

また、市民のみならずには、路上駐車は厳に慎んでいただくようお願いいたします。

(若草町 会社員)

【お答えします】

自分自身の励みになりました

自分の生活や信条などは、日々の忙しさに流されて、なかなか再確認することができません。

私も投稿された20人を見習って、生活の中に目標を持って生きていかなければと、新年にあたって思いを新たにしました。

「一年の計は元旦にあり」。まさしくそのとおりだと思えます。来年も正月号で同様の企画を組み、もっと多くの人の意見を紹介していただきます。

ちょっとひとこと

紙面上では匿名でも氏名、住所、電話番号をお知らせください。なお、個人や団体への中傷や営利を目的としたお話はご遠慮ください。

ちょっとひとこと

ちょっとひとこと

仲間たち

登別柔道スポーツ少年団

事務局長 田中和明さん

(☎053449)

『心身鍛える柔らの道』

「礼儀作法と思いやり。まずこの二つを覚えてから、受け身、技の順に教えていきます。ただ強いだけの柔道選手にはなってほしくない。柔道を通して体だけではなく心も鍛えてもらう。それが少年団の方針であり、私の願いでもあります」と話す田中和明さん。



登別柔道スポーツ少年団は、昭和48年に結成され、現在の団員数は女子2人を含む13人。幼稚園児から小・中学生までの少年少女が4人の指導者のもと、毎週火曜日と金曜日、登別大谷高校青樹館で練習しています。練習のほかにも、団員同士の交流を深めてもらうために、学校の夏休みと冬休みを利用して、キャンプや温泉に連れて行くこともあるそうです。

「以前に比べると、団員の数は少なくなっています。子どもの数が減少しているせいもあると思いますが、OBとしては寂しいですね。柔道は、スポーツといってももともとは格闘技です。もちろん技を決められると痛みを伴います。でも、これは相手にとつても同じことなんです。痛い思いをしながらも、相手の痛みを分か

かってあげることができるといい。それが柔らの心。なんといっても日本のお家芸ですから。子どもたちにはこの気持ち忘れずに大きく育ててほしいですね」と田中さんは話してくれました。

入団を希望する方は、田中さんまでどうぞ。



がらび

登別発の珍駅弁

『洋寿し』弁当

（有登別駅構内立売商会）

（登別東町）

「慌ただしく駅弁をつくっていたある日、たまたますし飯を口に入れたまま、そばにあつた切りかけのチーズを口に入れて食べたところ、意外とおいしかった。これが洋寿しをつくったきっかけです」と話すのは社長の川瀬将佐さん。

酔めしの上にチーズやハム、トンカツ、焼豚などを載せ、洋がらしを挟んだ『洋寿し』弁当は、しゅうゆの代わりにソースを付けて食べる。



べます。

「販売当初の昭和34年ころは、冷蔵庫が家庭に普及しておらず、生ずしをつくってもすぐ傷んでしまうので、チーズやトンカツなどを載せて洋風にしてみました。いろいろなチーズを探して食べてみましたが、結局日本人の口に合うチーズはプロセスチーズというところで今に至っています」と川瀬さんは、当時を振り返ります。

「人によってチーズや肉などに好き嫌いがあり、年配の方にはいまいちとつようですが、雑誌に載った洋寿しを見て遠くから買いに来る方や、以前、購入した方がなつかしいといつて再び買っていったりするんですよ。一度、全国でも珍しい駅弁『洋寿し』弁当の味をお試しください」と話す川瀬さん。

同商会には、『洋寿し』弁当のほか、サケやエビ、タラコ、コンブなど海の幸が盛りだくさんの『マリン弁当』や定番の『幕の内弁当』もあります。

購入希望の方は問い合わせください。

▼問い合わせ 有登別駅構内立売商会（登別東町1丁目1-3 ☎0531027）

あまなろ

山地亜紀子さん

（19歳）

恵愛病院勤務



登別町の恵愛病院（精神科・神経科・内科・小児科）で、総合案内や医療事務などを担当している山地さん。

「患者さんに少しでも安らぎを与えることができるように、常に笑顔で接することを心掛けています。仕事をしていたらと思うことはありませんよ。だって、病院の総合案内は私の幼いころからのあこがれでしたから」。

「とても優しく、笑顔のすてきな方でした。病院にはさまざまな年代の方が来ます。高齢の患者さんも多いので、何度でも分かっていただけるまで笑顔で説明するようにしています。少しでもあこがれの人に近づきたいですね」とほほ笑む山地さんの笑顔は、今日も患者さんを優しく迎えます。

キラキラ

『ふるさと登別を』

未来へ引き継ぐために

工藤 俱二雄 さん (36歳)

(「ふるさと登別大図鑑」CD-ROM版を制作)

「明るい豊かな社会」を実現するため、市内に勤務または居住している20歳から40歳までの青年で組織され、さまざまなまちづくり活動を行っている登別青年会議所。

◆ 登別市内の動植物や四季、歴史、小・中学校の校歌、祭りなどの映像を収録した「ふるさと登別大図鑑・CD-ROM(※)版」を制作した登別青年会議所の工藤理事長に話を聞きました。

◎なぜ、CD-ROM版をつくるうと思ったんですか

◆「登別青年会議所の活動の一環として、私たちが暮らしている『ふ

るさと登別』を未来に残したいと思ひ、昨年発行した『ふるさと登別大図鑑』を基に、パソコン向けとしてつくりました」

◎内容はどのようなものですか

◆「CD-ROMは、写真や動画の記録に最適です。この中には、市内の小・中学校と高校の校章や校歌のほか、美しい自然の写真や映像をふんだんに使い、見る人をあきさせないようにしています」

◎どんなところに苦労しましたか

◆「画像や説明文、ナレーションを、一つひとつチェックしなければなりませんから手間がかかりました。でも、内容の濃いものがで



きたと自負しています」

登別青年会議所会員として11年目を迎えた工藤さん。

「今年は、鬼っ子サミットやクロスカントリーレースの開催のほか、青年会議所の広域的な活動方法も検討しようと思っています」と話してくれた工藤さんのまじまじと語りかける情熱は、21世紀に向けて熱く燃えています。

「ふるさと登別大図鑑」と「CD-ROM版」の問い合わせは、登別青年会議所事務局(☎0128-00)までどうぞ。

※CD-ROM:画像や音声、動画などの情報を記録したコンピュータ用コンパクトディスク。

遊遊 自適

柳瀬俊夫さん (78歳)

登別東町

『心を鍛え身体を鍛えて』

「詩吟を始めてから24年になりますが、今ではいつの間にか口ずさむようになりました。声を出すことはストレスの解消にもつながりとても健康的ですよ」と話す柳瀬俊夫さん。長年勤務した職場(旧国鉄)を退職する日を迎えたとき、何一つ趣味を持っていなかった中で、明日から何をしたらいいのか考えたとたまらなく不安になったそうです。

「典型的な仕事人間でしたからねえ。そんなときですよ、友人に誘われて詩吟を始めたのは。それまでは人前で話すのがとても苦手でしたが、みんなで大きな声を出して練習しているうちに自信ができて、人前で話すことも苦にならなくなりました」と語る柳瀬さん。



「人生何と言っても健康第一ですね。好き嫌いなく何でも食べ、適度に運動してよく眠ることが健康を保つ秘けつですよ」と話す柳瀬さんは、今日も詩吟やスキーに励んでいます。

平成4年7月には、指導者としての資格である皆伝上席師範を取得するまでになりました。近年は、多くの仲間と一緒に毎年行われる発表会を目標に、毎週1回練習に

室蘭・登別急病センター 廃止のお知らせ

救急医療機関として市民のみならずにご利用されている「室蘭・登別急病センター」は、3月31日(火)をもって廃止となります。
4月1日(水)からは、通常の診療時間外の救急患者の受け入れは、次の病院で行います。

病院名	所在地	電話番号
登別厚生年金病院	登別市登別温泉町133	☎2165
市立室蘭総合病院	室蘭市山手町3-8-1	☎3111
新日鐵室蘭総合病院	室蘭市知利別町1-45	☎4650
日鋼記念病院	室蘭市新富町1-5-13	☎1331
室蘭太平洋病院	室蘭市白鳥台5-19-2	☎2211

▼問い合わせ 保健福祉課(しんた21内 ☎0100)

文化講演会

『まちづくりと文化』

- ▼日時 3月19日(木) 18時30分～
- ▼場所 市民会館中ホール
- ▼講師 三島敬子さん(札幌のはりべつ会文化スポーツ部会長・北のまちづくり協会常務理事)
- ▼演題 『まちづくりと文化』
- ▼入場料 無料
- ▼問い合わせ 文化・スポーツ振興財団(☎1116)

『黒澤家史料』が市の文化財に指定されました

市教育委員会は、2月10日付で、武家文書『黒澤家史料』を登別市指定有形文化財に指定しました。
『黒澤家史料』は、旧仙台藩白石城主片倉家の家臣として代々仕え、登別の開拓に尽くした黒澤家に伝わる江戸時代の古文書33点です。片倉家に関する文献がこのようにまとまって保存されている例は少ないといわれており、これ



▲日置流秘伝書

らは昭和56年の郷土資料館開館時に黒澤家第13代当主の黒澤友義さん(鷺別町)から市に寄贈されたものです。
伊達政宗の右腕として活躍した片倉小十郎景綱の功績を記した『景綱記』や、武士の身分証明書と辞令にあたる『知行目録』、日置流・今枝流の武術の免許皆伝書など江戸期の片倉家の様子を知ることが出来ます。
この新しい市の文化財は郷土資料館に展示されています。
▼問い合わせ 郷土資料館(☎1339)

公営住宅制度が変わります

平成8年度に改正された国の公営住宅法に基づき、市営住宅条例が改正されました。新しい制度は平成10年4月から適用されます。
主な改正内容

- 入居資格が変わりました
 - ◎男性60歳以上、女性50歳以上であった単身者の入居基準が緩和され、男女とも50歳以上の方であれば入居の申し込みができるようになります。
- 家賃制度が変わりました
 - ◎これまでの公営住宅の家賃は、各住宅の建設費に基づいて家賃が設定されていましたが、改正後は入居者の収入、住宅の広さ・築年数、立地条件、設備の状況などに応じて家賃を決定します。
- 入居収入基準額が変わりました
 - ◎新入居収入基準額(同居している方全員)の収入が対象です。年間総収入金額から必要経費を控除した額(給与所得者は給与所得控除後の額から、扶養親族1人につき38万円を控除した額を12で割った額が20万円以下)となります。
- 入居収入基準額がなくなりました
 - ◎1種・2種住宅の種別がなくなり、収入に応じて区分していた1種・2種住宅の種別が廃止され、新入居収入基準額以下の収入であれば、どの公営住宅へも入居の申し込みができるようになります。
- 新入居収入基準額(同居している方全員)の収入が対象です。年間総収入金額から必要経費を控除した額(給与所得者は給与所得控除後の額から、扶養親族1人につき38万円を控除した額を12で割った額が20万円以下)となります。

※ただし、次に該当する方の新入居収入基準額は26万8千円以下となります。

- ①入居者が50歳以上の方で、同居者のいずれもが50歳以上または18歳未満の方
- ②入居者または同居者が障害をもつ方

下水道排水設備工事指定店の指定申請を受け付けします

市は、下水道排水設備工事指定店の新規・継続指定の申請を受け付けします。
▼指定要件

- ◎登録市に登録している責任技術者が1人以上専属していること
- ◎工事の施工に必要な設備と器材を有していること
- ◎北海道内に営業所があること
- ◎工事業者(法人の場合は代表者)が禁治産者や準禁治産者または破産者でないことなど

※詳しい指定要件については問い合わせください。

▼申し込み・問い合わせ 3月5日(木)から3月24日(火)までに下水道課(☎9052)

マイプラン講座「料理講習会」

～ハープサークル～

- ▼日時 3月20日(金) 10時～12時
- ▼場所 市民会館
- ▼定員 25人(申込順)
- ▼参加料 1千円(材料費)
- ▼内容 ハープオムレツ、ハープソーセージ、かんたんピザなど
- ▼持参するもの エプロン、筆記用具
- ▼申し込み・問い合わせ 3月9日(月)～13日(金)までに磯野さん(☎1073)または清水さん(☎1840)

劇

団

四

季

王子とこじき

劇団四季のファミリー・ミュージカル



このまちが 好き

感動のステージへようこそ!

みなさんは、今と全く違う人生を送りたいと思ったことがありますか。劇団四季が贈るこのミュージカルは、二人の少年が服を取り替えたことで人生まで交換してしまう不思議なお話。真実とは、そして本当の勇氣とは？

躍動感あふれる踊りと心に染みる歌声が、真実への扉を開け放ちます。

●劇団四季のファミリーミュージカル「王子とこじき」

▼日時 4月24日(金) 開場18時、開演18時30分

▼場所 市民会館大ホール

▼入場料 指定席：4千200円、自由席：大人3千円、中学生以下2千円(100席限定)、親子券3千500円(親1人と3歳以上の未就学児1人)

※なお、3歳未満の幼児の入場はお断りしますのでご了承ください。

▼チケット取扱先 市民会館、市役所内母子会売店、総合体育館、アーニス、紀文堂書店(登別駅前)、ブックアベニ

ユーいりえ(若草町)

※指定席は、市民会館のみ取り扱っています。

▼問い合わせ 文化・スポーツ振興財団(☎011-116)

となりまち

ホットトライイン

室蘭市

白鳥大橋完成記念ハーフマラソン参加者募集

▼日時 大橋供用開始前 スタート11時30分(雨天決行)

▼コース 入江陸上競技場(発着点)→白鳥大橋(折り返し) 21.0975km

▼参加資格 4月2日現在、満15歳以上の男女で2時間20分以内で走れる方

▼募集定員 2千人(先着順)

▼参加料 3千円

▼申込方法 3月16日(月)から4月24日(金)までに、胆振管内の各市町村教育委員会に備え付けの申込用紙で申し込みください

▼申し込み・問い合わせ 白鳥大橋ハーフマラソン大会事務局(〒001-0073 室蘭市宮の森町4丁目1-43 室蘭市体育館内 ☎011-7521)

伊達市

早春の風をきる人募集

春一番伊達ハーフマラソン大会

▼日時 4月12日(日) 受付9時30分、スタート11時

▼場所 だて歴史の杜駐車場発着

▼種目 3km(小・中学生のみ)、5km、10km(車いすの部あり)、ハーフ(2時間以内で完走できる方)の4コース

▼参加料 小・中学生1千円、高校生・一般・車いす2千円、ハーフ3千円

▼申込方法 3月20日(金)までに参加料を郵便振替で入金してください

▼振込先 口座番号：02750101373336、加入者名：春の合宿村まつり実行委員会事務局、通信欄記入事項：氏名、住所、性別、年齢、種目、Tシャツのサイズ、所属団体、学校名

▼問い合わせ 伊達市教育委員会体育振興課(☎0142-233331)

